



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和3年5月28日

コロナ禍の今からこそ、特に **根拠のない話にのらない・ひろめない態度で**

校長 小野木義浩

新学期が始まって2ヶ月。コロナ禍で制限があっても、子供たちはそれぞれに工夫して元気に過ごしています。これからも、「マスクの着用」と「マスクを外す時こそその注意」、「手洗い・手指消毒」、「土・日を含めての毎日の健康チェック」など、自分で習慣化するように子供たちに働きかけていきます。

さて、新型コロナウイルス感染症第4波が到来し、いろいろなところで次のような話を耳にするようになりました。「子供が濃厚接触者になった」「家族がPCR検査を受けた」「家族が濃厚接触者でのため自宅待機した」などです。現在は、特別な場合を除き、通常の方策をしていますが、誰が感染しても不思議ではない状況であると言えるのかもしれませんが。

このような中、「新型コロナ感染症の感染者などへの差別・偏見」「コロナデマの拡散」などが相変わらずあります。「あの店で感染者が出たという噂だ。」「医療関係者は感染させるので公園に来てほしくない。」「コロナはアジア人のせいだ。」「コロナ禍でトイレットペーパーがなくなる。」・・・本当にひどいものばかりです。しかし、これまでの歴史を振り返ってみても、例えば、災害など差し迫った状況やストレスがひどくたまる状況の中では、特にデマの拡散や誹謗・中傷が起こっています。これらの行為は、人々のストレスのはけ口であったり、不安をあおる悪意、逆に親切心や役に立ちたい気持ちからの行為であったりする場合などがあります。SNSの発達した現在では、人の言ったことを鵜呑みにしてリツイートしたり、さらにほかの人に拡散したりすることも、自分自身が間違っただけの情報発信者となります。私たちはこのように根拠のない話に振り回されたり、踊らされたりする弱さをもっています。

ご存知のように、このような大人の世界で起きていることは、子供の世界でも起こっています。子供たちの生活の中での主なトラブルの原因は、「人からの伝え聞き」に関連した事案が多いです。「〇〇さんがあなたの悪口を言っていたよ。」「□□さんが△△さんのことを嫌いと言っていたのを聞いたよ。」「〇〇さんが、こんなひどいことをしていたそうだよ。」「前に、◇◇さんはこんなことをしていたので、今回もきっと◇◇さんがやったにちがいない。」などの発言や思い込みをきっかけに喧嘩になったり、仲が悪くなったり、相手を無視したりなどのトラブルに発展しています。

事情を聞くと、「だって、誰かがそう言っていたから。」「そう言っていたような気がするから。」と子供たちは言います。自分の目で確かに見たこと、自分の耳でちゃんと聞いたことなどを根拠とする場合は思いのほか少ないです。多くが、人からの伝え聞き・根拠のない推測、思い込みによるものです。

子供の世界は「大人の世界の写し鏡」とも言われています。私たち大人がまず、「噂話にのらない・噂話をひろめない」ようにすることが大切です。さらに、なかなか難しいのですが、出来事を一面だけで見て判断するのではなく、できるだけ多方面から見て、よく考え判断すること、また、もし、自分が言われたらどう感じるのかを考えることを意識して発信していくことを意識したいものです。

物事を俯瞰して見て、冷静に思いやりをもって言動することを私たち大人が大切にしていくと、わたしたちの身近にいる子供たちにもきっとよい見方や考え方が伝わっていくと信じています。

みんなが苦しい時だからこそ、安易に根拠のない話に踊らされず、物事を多面的に見て、何より思いやりの心をもって「人にやさしく」することの大切さを子供たちに考えさせていきたいです。

